

Contents	Page
I 高畠町の産業構造	1
1. 高畠町の経済規模	1
2. 高畠町の産業構造	3
3. まとめ	9
II 高畠町産業別の現状分析	10
1. 産業別の現状分析	11
2. 現状と課題の整理	29

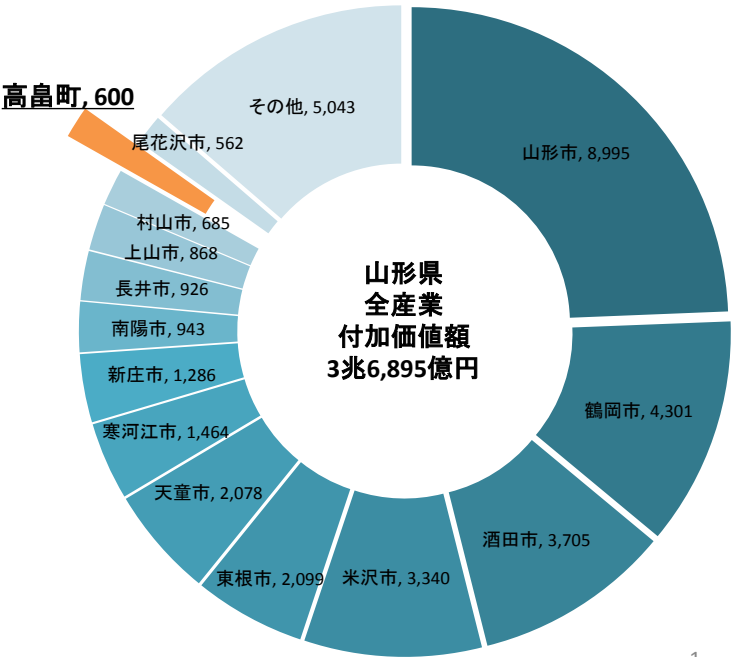
0

1. 高畠町の経済規模 【山形県】

- 2012年山形県全市町村において、県内の経済活動で生み出された付加価値額は3兆6,895億円であった。そのうち約25%は山形市が占めており、次いで庄内地方の鶴岡市・酒田市が約12%・10%と高い割合を占めている。
- 高畠町で生み出された付加価値額は600億円であり、県の1.6%、県内市町村13番目にあたる。

□ 山形県市町村の付加価値額（2012年）

- 山形県の全産業の付加価値額は3兆6,895億円であり、そのうち24.4%にあたる約9000億円は山形市で発生している。
- 高畠町で発生した付加価値額は600億円である。これは、山形県の全市町村の1.6%、13番目の数値であり、町村内では最も値が高く尾花沢市を超えている。



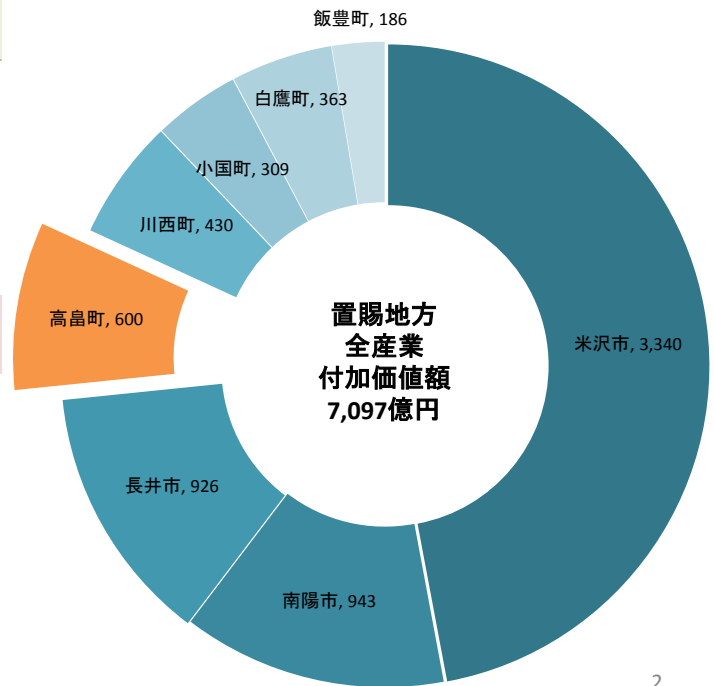
* 付加価値額
・ 付加価値額とは、企業の生産活動によって新たに生み出された価値のことであり、「売上高」から「費用総額」を引いた額に、「給与総額」と「租税公課」を加えたもの。
・ 地域内にどの程度の付加価値額が発生したかを把握することは、地域の経済力を図る重要な指標となる。

1. 高畠町の経済規模 【置賜地方】

- 置賜地方で2012年に生み出された付加価値額は7,097億円であり、そのうち47.1%を米沢市がしめており、置賜地方の中では、米沢市が経済的に中核的な位置を占めていると言える。
- 高畠町が2012年に生み出した600億円という付加価値額は、置賜地方内の8.5%を占め、町の中では1番である。

市町村名	付加価値額 (億円)	構成比
米沢市	3,340	47.1%
南陽市	943	13.3%
長井市	926	13.0%
高畠町	600	8.5%
川西町	430	6.1%
小国町	309	4.4%
白鷹町	363	5.1%
飯豊町	186	2.6%

□ 山形県置賜地方の付加価値額(2012年)



出所: 経済センサス活動調査(2012年)

2

2. 高畠町の産業構造 【産業の特徴】

- 高畠町の産業の中で雇用・付加価値額ともに高いウェイトを占めているのは、「建設業」・「製造業」・「卸売・小売業」・「医療・福祉」である。
- また、「農業」も多くの労働力を吸引している産業である。(後述)

□ 高畠町の産業大分類別の主要指標(各指標上位5産業に赤で色づけ)

	事業所		事業従事者		付加価値額		売上額		付加価値率 (%)
	(所)	構成比(%)	(人)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
総数	1,049		7,982		22,141		77,303		
農林漁業	11	1.0	112	1.4	40	0.2	1761	2.3	2.3
鉱業, 採石業, 砂利採取業	1	0.1	13	0.2	X	X	X	X	X
建設業	169	16.1	693	8.7	1,575	7.1	5,620	7.3	28.0
製造業	131	12.5	3,215	40.3	9,318	42.1	36,150	46.8	25.8
電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情報通信業	3	0.3	8	0.1	11	0.0	22	0.0	50.0
運輸業, 郵便業	24	2.3	304	3.8	894	4.0	1,648	2.1	54.2
卸売業, 小売業	262	25.0	1,363	17.1	4,649	21.0	19,683	25.5	23.6
金融業, 保険業	10	1.0	101	1.3	433	2.0	1,071	1.4	40.4
不動産業, 物品賃貸業	42	4.0	97	1.2	186	0.8	604	0.8	30.8
学術研究, 専門・技術サービス業	24	2.3	165	2.1	126	0.6	289	0.4	43.6
宿泊業, 飲食サービス業	109	10.4	420	5.3	780	3.5	2,477	3.2	31.5
生活関連サービス業, 娯楽業	106	10.1	255	3.2	325	1.5	750	1.0	43.3
教育, 学習支援業	17	1.6	106	1.3	265	1.2	706	0.9	37.5
医療, 福祉	53	5.1	668	8.4	2,170	9.8	3,664	4.7	59.2
複合サービス事業	9	0.9	85	1.1	X	X	X	X	X
サービス業(他に分類されないもの)	78	7.4	377	4.7	1,369	6.2	2,858	3.7	47.9

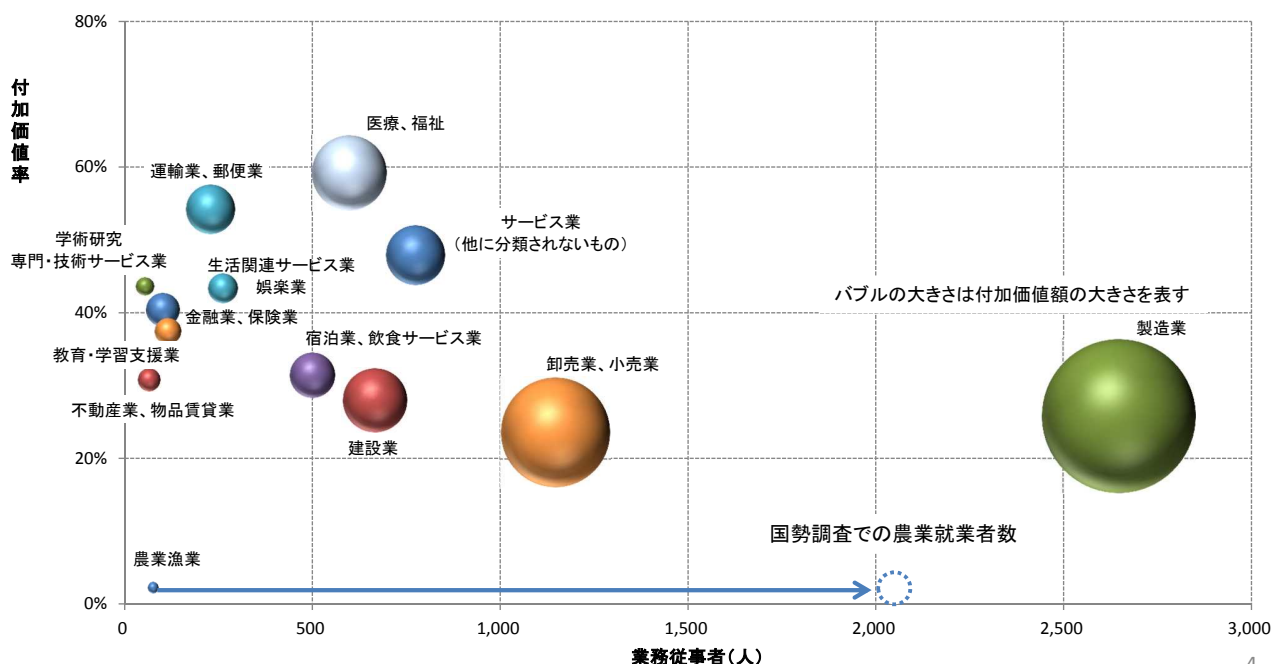
3

出所: 経済センサス活動調査(2012年) (注) 事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなるため、農林漁業については別に分析する必要がある

2. 高畠町の産業構造 【産業の特徴】

- 高畠町産業では「製造業」・「卸売・小売業」の2つが付加価値額・従事者数の面では目立つ存在である。
- ただし、「卸売・小売業」に関しては典型的な域内市場産業であるため、域内の人口に左右される。
- 域外から外貨を獲得する産業は、主に域外を市場とする（あるいは域外からの資金で仕事が発生する）「農業」、「製造業」、「建設業」、「観光業（宿泊業・飲食サービス業）」と考えられる。

□ 高畠町産業の雇用吸引力・稼ぐ力（民営事業所の付加価値額・業務従事者・付加価値率に関するバブルチャート）

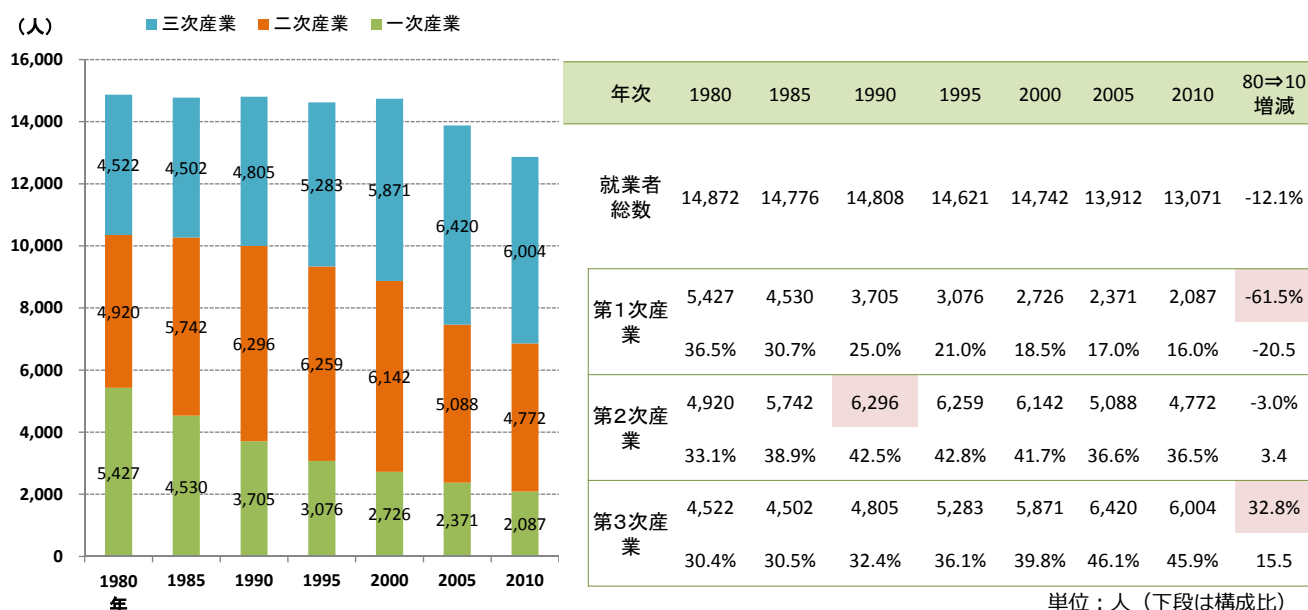


出所：経済センサス活動調査（2012年）（注）事業所を調査対象としているため、個人事業主の多い農林漁業の値が小さくなるため、農林漁業については別に分析する必要がある

2. 高畠町の産業構造 【就業構造】就業者数の推移

- 高畠町の就業者数は1980年から2000年の間は大きな変動はなく約1.5万人を維持していたが、2000年以降は減少傾向にあり、2010年には1.3万人となっている。
- 産業別に見ると、一次産業の就業者の減少が著しく、1980年から2010年で約6割減少している。二次産業の就業者は1980年から1990年で28%増加したが、以降は減少傾向である。

□ 就業者数の推移（総数・産業別）

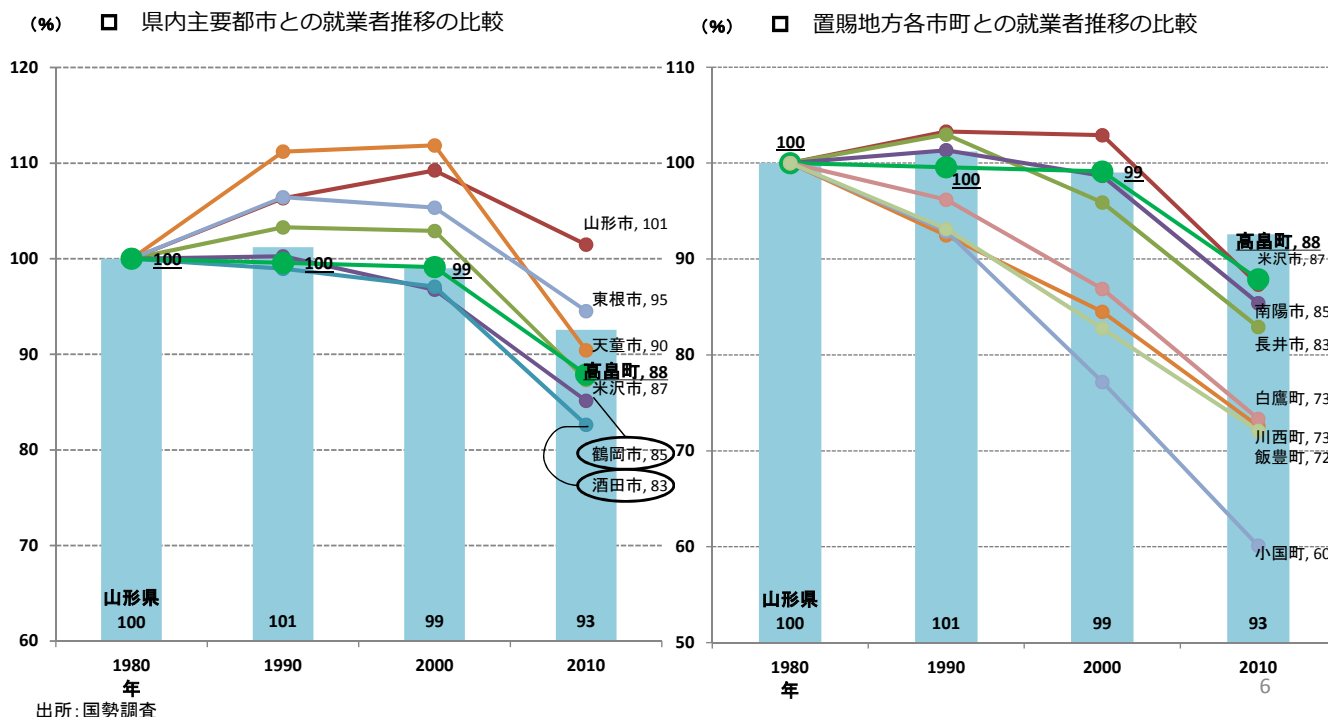


出所：国勢調査

2. 高畠町の産業構造

【就業構造】県内他地域との比較

- 山形県全体で見ると、全ての主要都市で就業者は減少傾向にある。高畠町は同じ置賜地方内の米沢市と同レベルの減少幅（1980年比で約1割減）となっている。
- 置賜地方の各都市と高畠町を比較してみると、高畠町の就業者の減少幅は同地方内で最も小さいものとなっている。他の「町」ではこの30年で就業者は約3割～4割減少している。

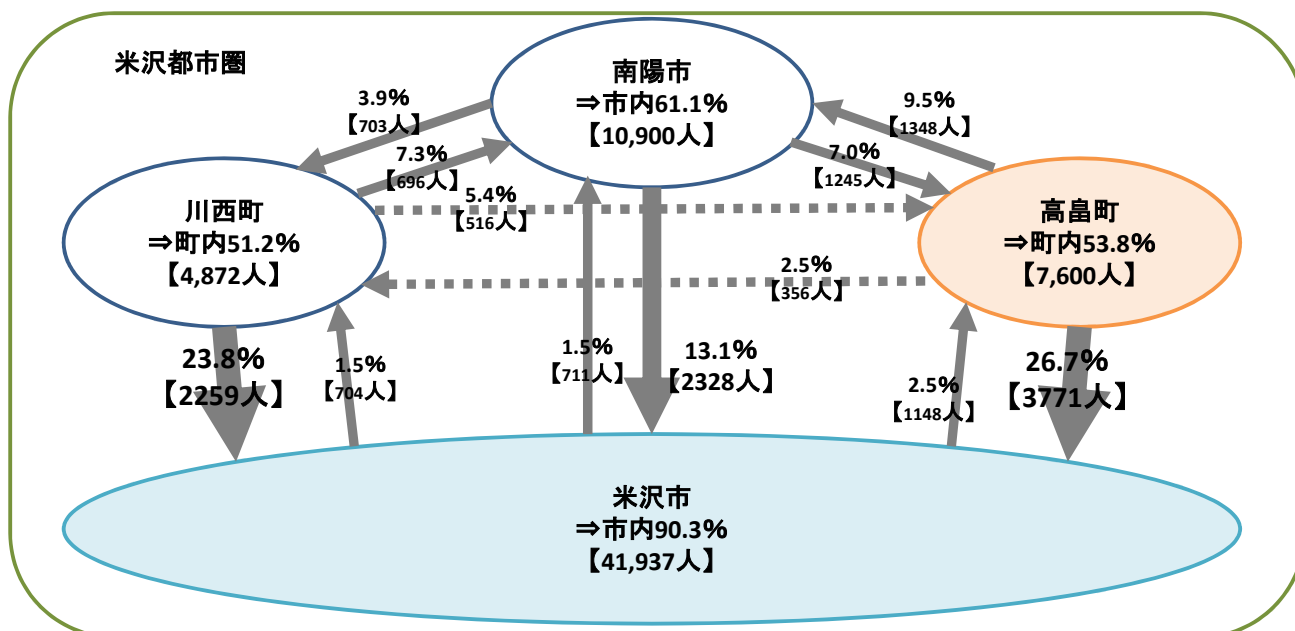


2. 高畠町の経済構造

【就業構造】都市圏の構成

- 高畠町は米沢市の都市圏に属しており、町内の15歳以上通勤・通学者の26.7%（実数化すると3771人）と多くの人々が米沢市に通勤・通学していることから、米沢市のベッドタウンという側面を持つ町である。
- また、南陽市にも9.5%（1348人）と比較的多くの人々が南陽市に通勤・通学しているが、南陽市から高畠町にも7.0%（1245人）と実数ではほぼ同等の人数が通勤・通学してきている。

□ 米沢都市圏の構成（10%通勤・通学圏を都市圏とする）

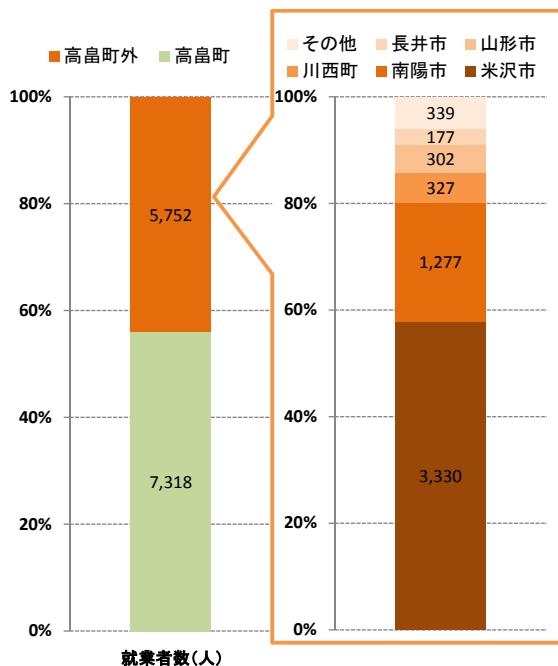


2. 高畠町の産業構造

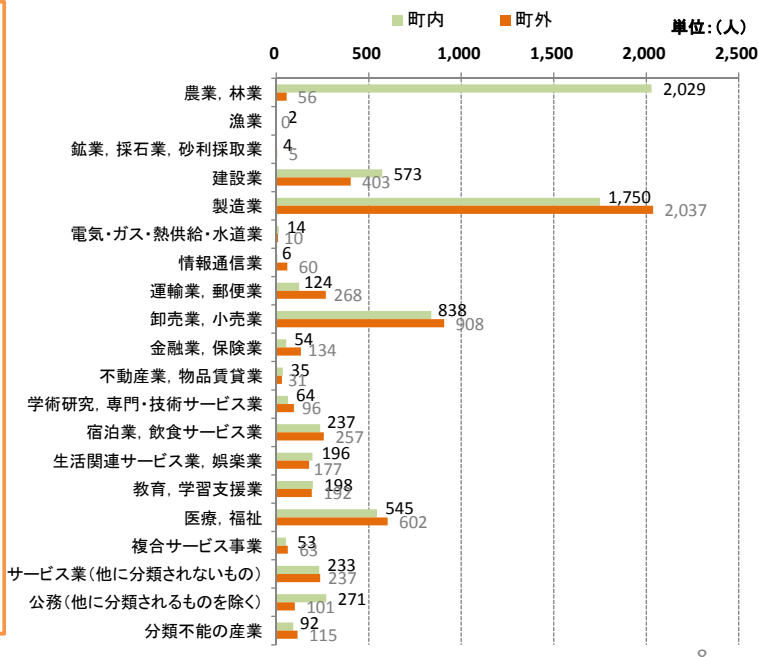
【就業構造】高畠町民の就業先

- 高畠町民のうち就業者である1.3万人のうち44%・約6千人は、町外で働いている。その6千人のうち、米沢市で働くのは約6割の3,300人である。
- 高畠町民が最も働いている産業は農業・林業であり就業者数は2千人である。次点で製造業の1,750人であるが、製造業に関しては町内就業者数よりも、町外就業者数（2千人）が勝っている点が目立つ。

□ 高畠町民の就業地



□ 高畠町民の産業別就業者数 (町内・町外別)



3. まとめ

- 「雇用吸引力の強さ」と「対象とする市場」で産業を分類した場合、雇用吸引力が強くかつ域外を市場として外貨を獲得している産業は、「農業」と「製造業」であると言える。
- 一方で、域内を市場としている産業では、「卸売・小売業」・「医療・福祉」・「サービス業の一部」が雇用吸引力が強い。
- また、高畠町の場合、米沢を中心とする近隣地域での雇用機会が、重要な外貨獲得の契機となっていることも見逃せない。

	域内産業 地域内を主要な市場とし 生活の効用を高めている産業	域外産業 地域外を主要な市場とし 外貨を獲得している産業
雇用吸引力 強い	■ 卸売業・小売業 ■ 医療・福祉 ■ 一部のサービス業	■ 農業 ■ 製造業
雇用吸引力 弱い	■ サービス業全般 (地域内の住民を対象としている ほとんどすべてのサービス業は 域内産業にあたる)	■ 宿泊・飲食サービス業 ■ 建設業(公共投資が主)

+

米沢を中心とする近
隣地域での雇用機会
(労働力を移出し
給与という形で
外貨を獲得)

Contents	Page
I 高畠町の産業構造	1
1. 高畠町の経済規模	1
2. 高畠町の産業構造	3
3. まとめ	9
II 高畠町産業の特性	10
1. 産業別の現状分析	11
2. 現状と課題の整理	29

1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【農業経営体・農地】

- 高畠町の農業経営体数は1,373経営体である。これは山形県内で10番目に多い数であり、町の中では1番多い数字となっている。経営耕地面積（農業経営体が経営している耕地）は3,391haであり、県内では経営体数と同様に10番目に多い数となっている。
- また、高畠町は1970年代からの有機農業の取組、ワイン等の6次産業化の取組が盛んであることが大きな特徴となっている。

□ 山形県の農業経営体数

	地域	経営体数	構成比 (%)
	県計	40,831	
1	鶴岡市	4,717	11.6
2	山形市	3,087	7.6
3	天童市	2,277	5.6
4	東根市	2,226	5.5
5	酒田市	2,137	5.2
6	村山市	2,037	5.0
7	尾花沢市	1,841	4.5
8	寒河江市	1,509	3.7
9	新庄市	1,497	3.7
10	高畠町	1,373	3.4

□ 山形県の経営耕地面積

	地域	経営耕地面積	構成比 (%)
	山形県	104,686	
1	鶴岡市	16,480	15.7
2	酒田市	11,095	10.6
3	庄内町	5,359	5.1
4	新庄市	4,907	4.7
5	川西町	4,663	4.5
6	尾花沢市	4,621	4.4
7	山形市	4,306	4.1
8	米沢市	3,928	3.8
9	村山市	3,710	3.5
10	高畠町	3,391	3.2

単位: ha

1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【農地①】

- 高畠町にある経営耕地面積3,391haのうち、79% (2,684ha) が田、12% (401ha) が樹園地、9% (306ha) が畑として利用されている。
- 県内において、田は11番目、畑は8番目、樹園地は9番目に広い水準となっている。

□ 山形県の経営耕地面積（畑、樹園地）

地域	経営耕地面積 (畑)	構成比 (%)
山形県	9,296	
1 鶴岡市	1,070	11.5
2 尾花沢市	911	9.8
3 酒田市	815	8.8
4 村山市	619	6.7
5 山形市	476	5.1
6 白鷹町	352	3.8
7 米沢市	335	3.6
8 高畠町	306	3.3
9 飯豊町	299	3.2
10 川西町	289	3.1

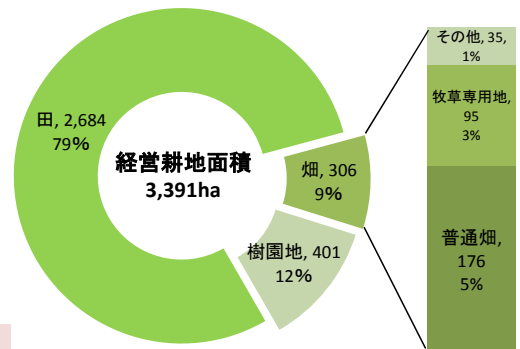
単位: ha

出所: 農林業センサス(2010年)

□ 高畠町の経営耕地面積

地域	経営耕地面積 (樹園地)	構成比 (%)
山形県	8,282	
1 東根市	1,469	17.7
2 天童市	1,430	17.3
3 寒河江市	642	7.8
4 鶴岡市	614	7.4
5 上山市	566	6.8
6 山形市	507	6.1
7 朝日町	470	5.7
8 南陽市	412	5.0
9 高畠町	401	4.8
10 村山市	343	4.1

単位: ha



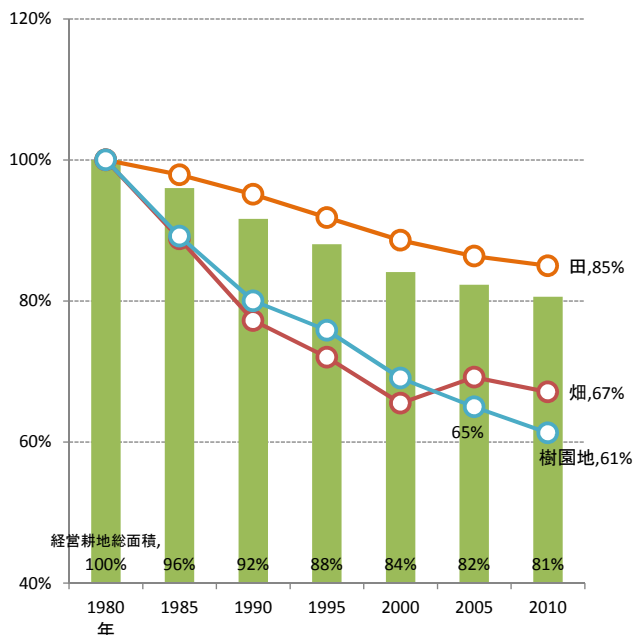
単位: ha

12

1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【農地②】

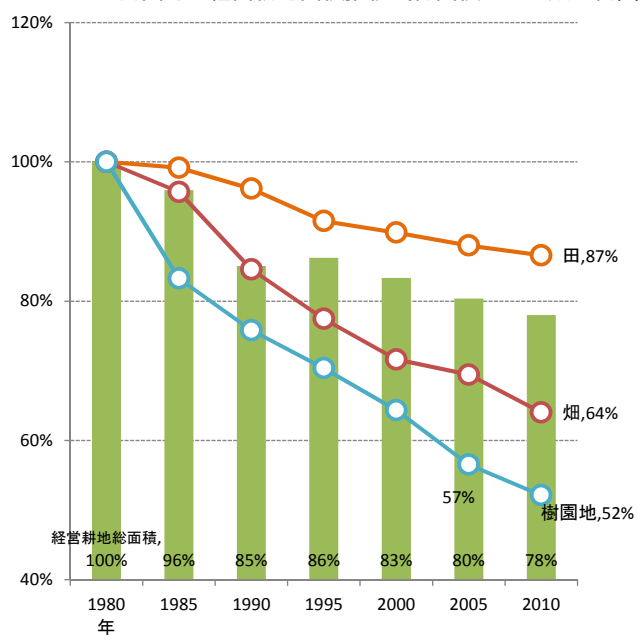
- 1980年から2010年にかけて経営耕地総面積の推移を見てみると、山形県全体では19%の減少で、高畠町では22%の減少となっている。
- 経営耕地を細分化して見てみると、1980年から2010年にかけて田と畑の面積は、県と高畠町は同程度の減少幅であるが、樹園地は県が4割減に対し、高畠町は5割減となっている。

□ 山形県の経営耕地面積推移（総面積、田、畑、樹園地）



出所: 農林業センサス(2010年)、高畠町勢要覧(2015年)

□ 高畠町の経営耕地面積推移（総面積、田、畑、樹園地）

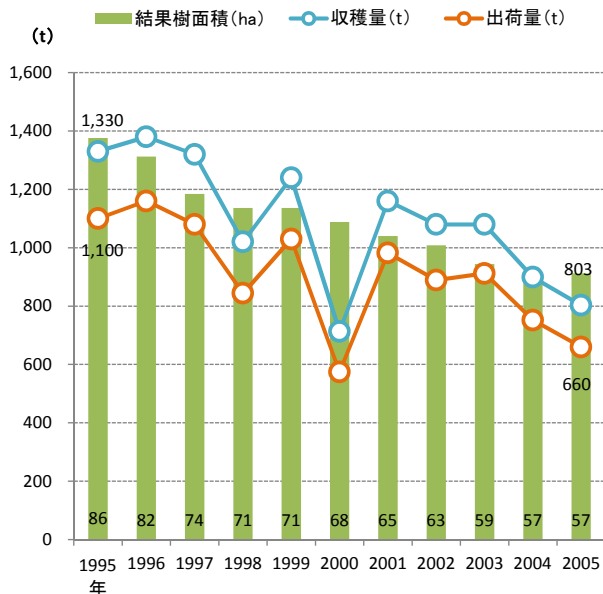


13

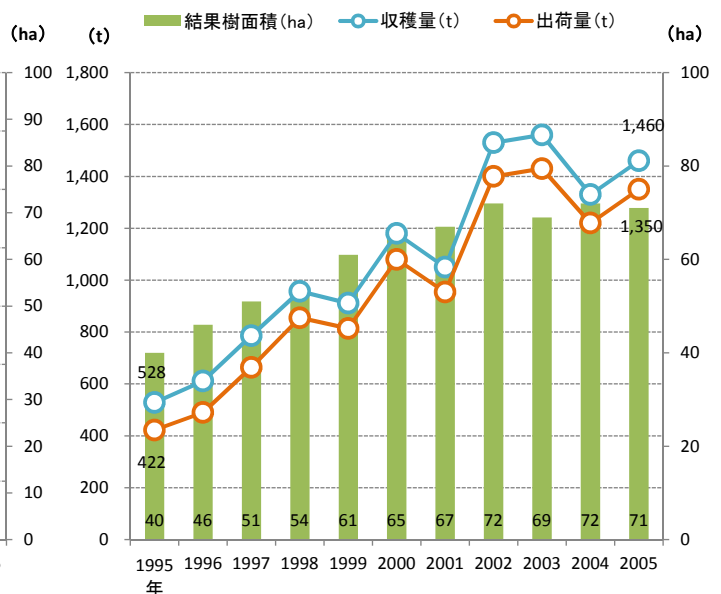
1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【果樹 品目別長期推移①】

- 1995年から2005年までの間に、高畠町産のリンゴの結果樹面積は86haから57haに減少している。収穫量・出荷量も、ともに約500tの減少となっている。
- 高畠町産の西洋梨は1995年から2005年の間に、結果樹面積が約30ha増加しており、収穫量・出荷量も約3倍に伸びている。

□ 高畠町 リンゴの長期推移



□ 高畠町 西洋梨の長期推移



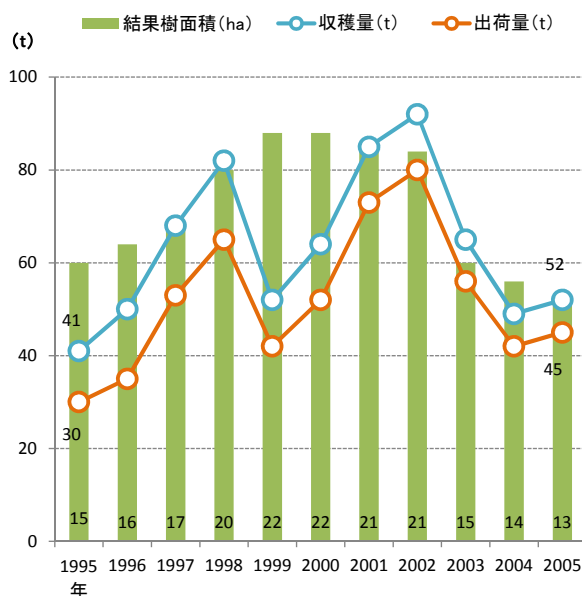
出所：作物統計(2006年)※2006年以降の市町村別データが存在しないため、2006年までの調査結果を使用。

14

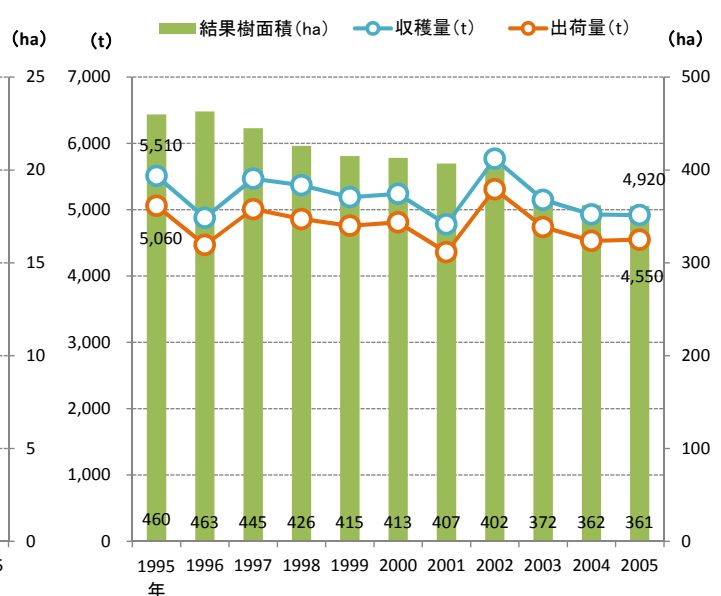
1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【果樹 品目別長期推移②】

- 高畠町産のおうとうの結果樹面積は、1995年から2005年の間で多少の増加はあったものの、結果的に減少している。収穫量・出荷量は、2002年のピーク以降、減少幅が著しくなっている。
- 1995年から2005年の間で、高畠町産ぶどうの収穫量・出荷量は、多少のアップダウンはあるものの、ほぼ横ばいなのに対して、結果樹面積は1995年の460haから2005年には361haと減少傾向にある。

□ 高畠町 おうとうの長期推移



□ 高畠町 ぶどうの長期推移



出所：作物統計(2006年)※2006年以降の市町村別データが存在しないため、2006年までの調査結果を使用。

15

1. 産業別の現状分析 (1) 農業 【結果樹面積の推移】

- 1995年から2005年までの結果樹面積を品目別に数値化して見てみると、面積が増加しているのは西洋梨のみであり、それ以外の品目の面積は減少傾向にある。
- 高畠町提供の資料によると、2013年の果樹栽培面積は480.2haである。
- 2005年に71haあった西洋梨の結果樹面積は、2013年には47.6haの栽培面積となっている。

□ 高畠町 結果樹面積の長期推移

年次	1995年	2000年	2005年	2013年 (栽培面積)	1995⇒2005
結果樹 面積計	601	568	502	480.2	-16.5%
リンゴ	86	68	57	38	-33.7%
	14.3%	12.0%	11.4%	7.9%	-2.9
西洋梨	40	65	71	47.6	77.5%
	6.7%	11.4%	14.1%	9.9%	7.4
おうとう	15	22	13	25.4	-13.3%
	2.5%	3.9%	2.6%	5.3%	0.1
ぶどう	460	413	361	369.2	-21.5%
	76.5%	72.7%	71.9%	76.9%	-4.6

単位: ha(下段は構成比)

出所: 高畠町提供資料、作物統計(2006年)※2006年以降の市町村別データが存在しないため、2006年までの調査結果を使用。

16

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業 【県内製造業の概況】

- 山形県全体の製造品出荷額等は2013年で2.3兆円であり、うち高畠町は564億円で全体の2.4%を占めている。
- 県内でシェアが高いのは、米沢・東根市であり、それぞれ県の約2割・1.5割の出荷額となっている。

□ 山形県の製造業ランキング(製造品出荷額等による)

	事業所 (所)	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (億円)	粗付加価値額 (億円)
山形県	2,682	97,320	23,958	8,794
1 米沢市	279	10,774	5,225	1,503
2 東根市	107	7,644	3,809	976
3 鶴岡市	285	11,399	2,398	1,045
4 酒田市	203	8,208	2,013	905
5 山形市	397	10,795	1,867	748
6 天童市	147	6,890	1,655	667
7 寒河江市	107	5,494	1,438	545
8 高畠町	82	3,358	564	247
9 上山市	92	2,843	550	180
10 新庄市	109	3,467	478	190
11 長井市	119	3,612	464	229
12 南陽市	107	3,009	442	221
13 村山市	82	2,767	380	186
14 尾花沢市	53	1,604	300	119
15 河北町	60	2,235	292	128

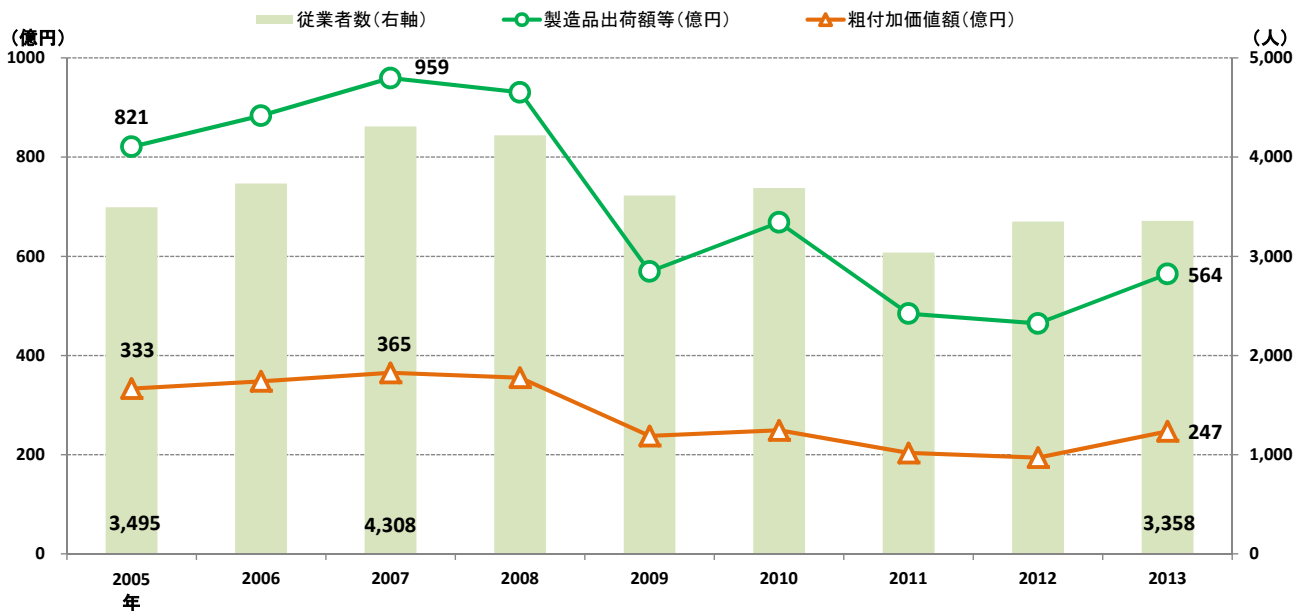
出所: 山形県工業統計調査結果(2013年)

17

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業【長期推移】

- 高畠町の製造業出荷額等は、ピーク時2007年の959億円から2013年は564億円まで減少している。特にリーマンショックの影響により2008年から2009年の減少額が著しく、約370億円もの減少が見られる。
- ただ、粗付加価値額と従業者数は、大きく減少していないことから、製造業の基盤は比較的安定していると言える（つまり大きな撤退がない、または撤退があっても何らかの継承がなされている）。

□ 高畠町の製造業の推移



出所: 山形県工業統計調査結果 (2013年)

18

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業【製造業の構成①】

- 高畠町の製造業のうち、従業者数・製造品出荷額・粗付加価値額どれも高いウェイトとなっているのは、「食料品製造業」・「生産用機械器具製造業」・「電子部品・デバイス・電子回路製造業」である。

□ 製造業業種別の主要指標

	事業所数	従業者 (人)		製造品出荷額等 (億円)		粗付加価値額 (億円)		粗付加価値率
製造業計	82	3,358		564		247		44%
食料品製造業	19	968	28.8%	115	20.3%	54	21.9%	47%
飲料・たばこ・飼料製造業	5	63	1.9%	17	2.9%	10	3.9%	58%
繊維工業	3	18	0.5%	0	0.1%	0	0.2%	77%
木材・木製品製造業(家具を除く)	2	12	0.4%	x	-	x	-	-
家具・装備品製造業	1	137	4.1%	x	-	x	-	-
印刷・同関連業	2	26	0.8%	x	-	x	-	-
プラスチック製品製造業(別掲を除く)	3	113	3.4%	15	2.7%	7	2.9%	47%
窯業・土石製品製造業	2	13	0.4%	x	-	x	-	-
金属製品製造業	7	119	3.5%	12	2.1%	6	2.6%	55%
はん用機械器具製造業	1	23	0.7%	x	-	x	-	-
生産用機械器具製造業	14	598	17.8%	190	33.6%	77	31.1%	40%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	4	801	23.9%	106	18.9%	53	21.4%	50%
電気機械器具製造業	12	294	8.8%	33	5.8%	15	6.0%	45%
情報通信機械器具製造業	3	130	3.9%	4	0.6%	3	1.2%	87%
輸送用機械器具製造業	3	30	0.9%	3	0.5%	2	0.8%	62%
その他の製造業	1	13	0.4%	x	-	x	-	-

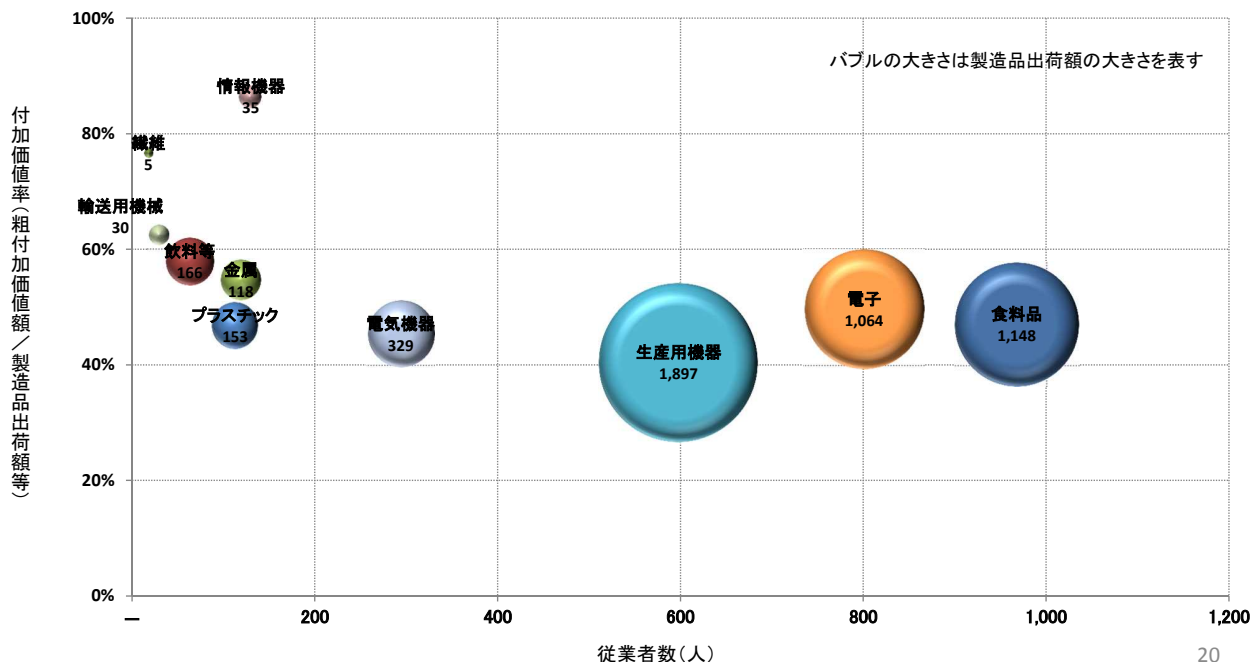
出所: 山形県工業統計調査結果 (2013年)

19

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業【製造業の構成②】

- 製造業の業種別に雇用吸引力と稼ぐ力を視覚化すると、「食料品」・「電子部品・デバイス・電子回路製造業」・「生産用機器製造業」の存在感が大きいことが理解できる。この3種類は高畠町の製造業で重要な位置を占める業種と言える。

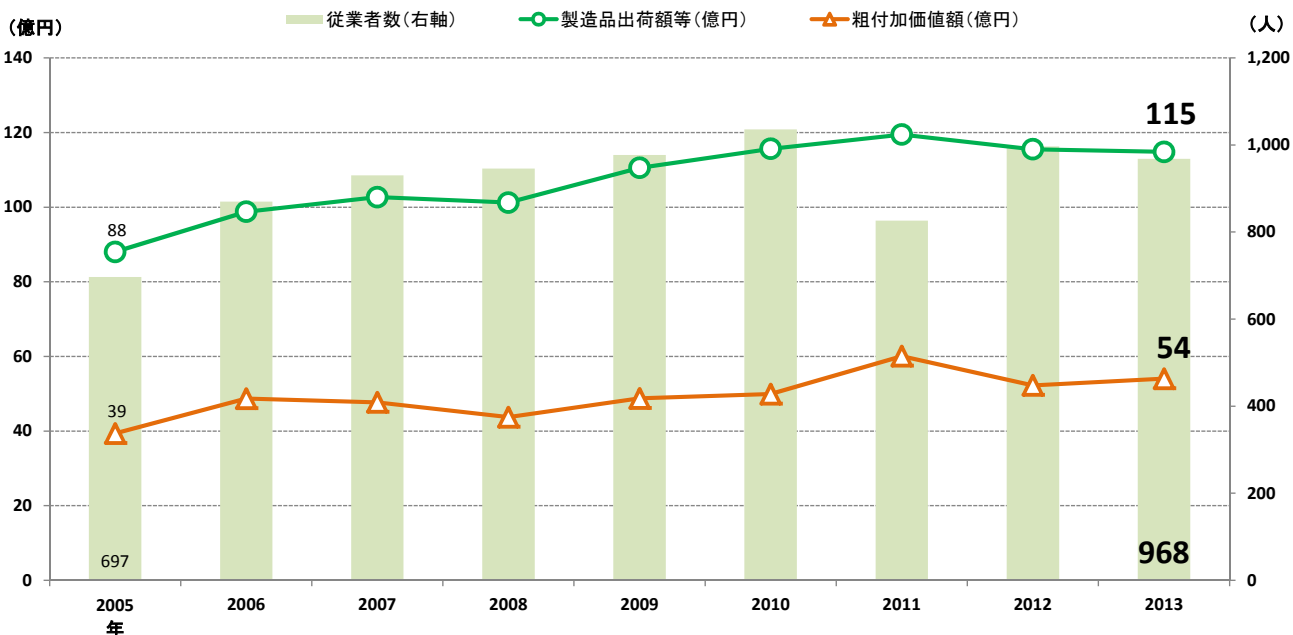
□ 高畠町製造業のポートフォリオ



出所：山形県工業統計調査結果（2013年） * 家具製造等は秘匿値があるため、ここには掲載していない

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業 【食料品製造業の長期推移】

- 高畠町の食料品製造業は、2005年の88億円から、2013年は115億円と成長傾向にある。従業者数も多少の変動はあるものの、2005年以降は900人前後を維持しており、全製造業と比べると減少幅は小さい。
- 食料品製造業は、高畠町の主要産業の一つである農業とのシナジーも大きいことから、今後もっとも注力していくべき業種と言えよう。

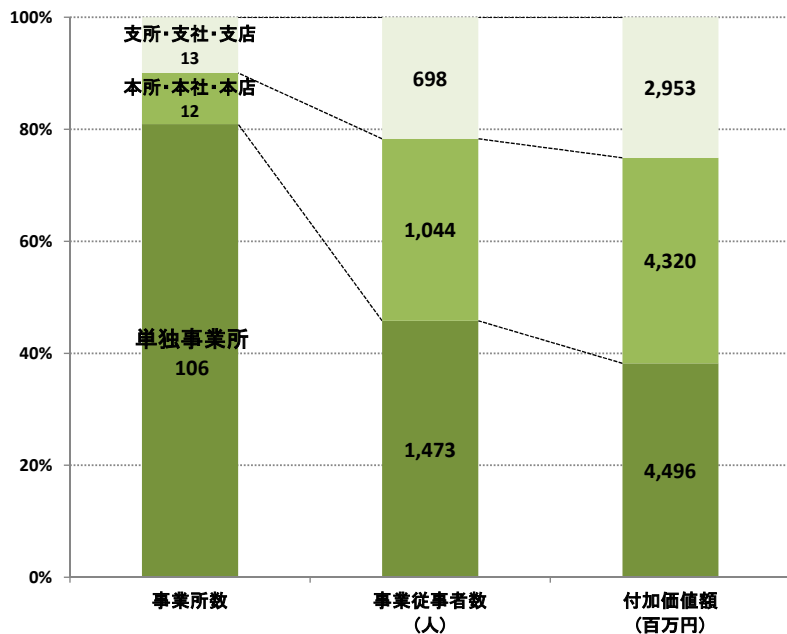


出所：山形県工業統計調査結果（2013年）

1. 産業別の現状分析 (2) 製造業 【単独・本所・支所別の構成】

- 高畠町の地元企業が生み出す付加価値は、製造業全体の7割程で、残りの3割は町外企業の工場等が生み出している。
- これら町外企業は付加価値額のうちの利益のほとんどを町外の本社が吸い上げる構造になっている。経済循環の観点から見ると町内の地元企業は、付加価値額、事業従事者数がそれぞれ全体の7～8割を占めていることから、雇用吸引力・外貨獲得力を十分に持つ重要な企業が多いと言える。

□ 事業所類型別の事業所・従事者・付加価値額



■ 単独事業所

- 他の場所に同一経営の本所(本社・本店)や支所(支社・支店)を持たない事業所をいう。
→地元企業

■ 本所(本社・本店)

- 他の場所に同一経営の支所(支社・支店)があつて、それらの全てを統括している事業所をいう。本所の各部門が幾つかの場所に分散しているような場合は、社長などの代表者がいる事業所を本所とし、他は支所としている。
→地元企業

■ 支所(支社・支店)

- 他の場所にある本所(本社・本店)の統括を受けている事業所をいう。上位の事業所の統括を受ける一方で、下位の事業所を統括している中間的な事業所も支所としている。
支社、支店のほか、営業所、出張所、工場、従業員のいる倉庫、管理人のいる寮なども含まれる。なお、経営組織が外国の会社は支所とする。
→市内に本所がある事業所のみ地元企業

出所: 経済センサス活動調査(2012年)

22

1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【県内小売業の概況】

- 山形県全体の小売販売額は約1.0兆円である。小売業の規模は商圏人口とほぼ比例するため、人口が集積する山形市が2,900億(27.6%)を占め、その後もほぼ人口規模の順に鶴岡・酒田と続く。
- 高畠町は148億円で県内15位(1.4%)の規模である。

□ 小売業の主要指標

		小売販売額 (億円)		売り場面積 (千平方メートル)		就業者数 (人)	
	山形県	10,450		1,525		56,829	
1	山形市	2,880	27.6%	352	23.1%	13,836	24.3%
2	鶴岡市	1,150	11.0%	170	11.1%	6,917	12.2%
3	酒田市	1,046	10.0%	133	8.7%	5,251	9.2%
4	米沢市	910	8.7%	143	9.4%	4,771	8.4%
5	天童市	609	5.8%	90	5.9%	3,159	5.6%
6	新庄市	474	4.5%	78	5.1%	2,487	4.4%
7	寒河江市	434	4.2%	66	4.3%	2,379	4.2%
8	東根市	391	3.7%	79	5.2%	2,081	3.7%
9	長井市	307	2.9%	42	2.7%	1,700	3.0%
10	南陽市	295	2.8%	49	3.2%	1,760	3.1%
15	高畠町	148	1.4%	21	1.4%	1,043	1.8%

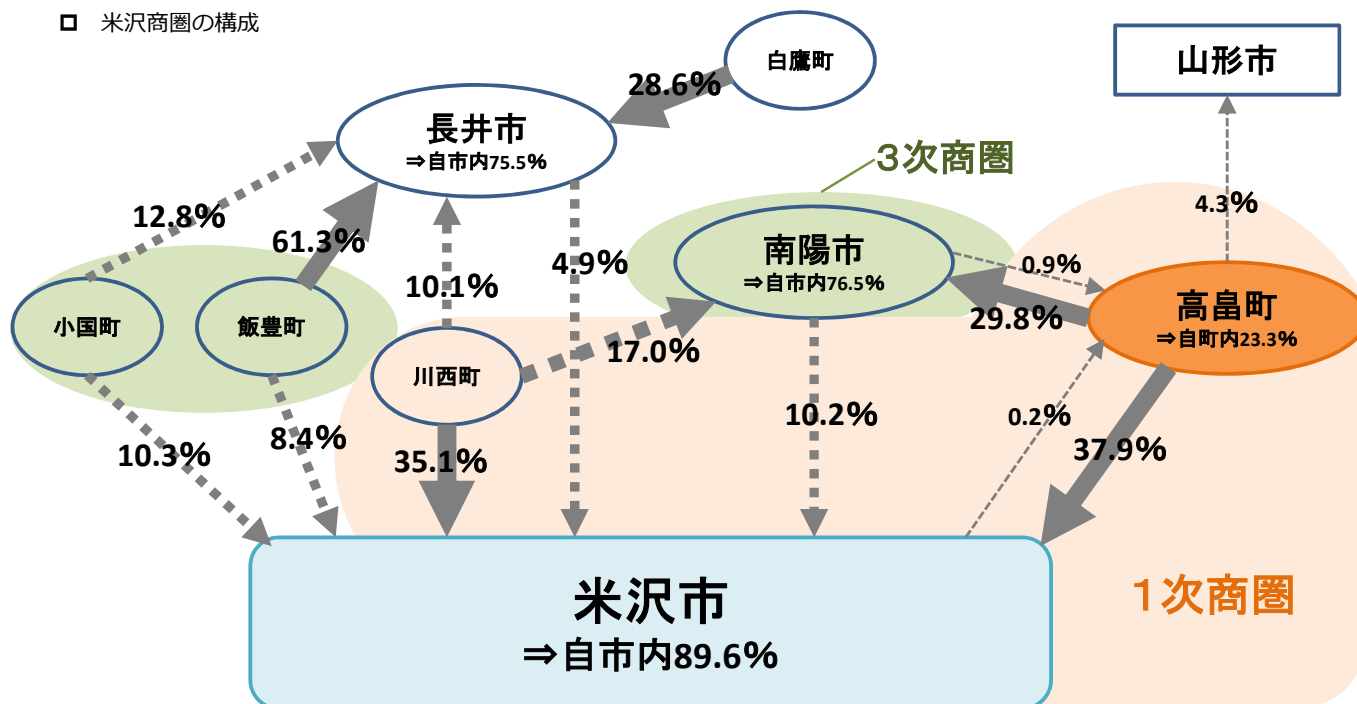
出所: 経済センサス活動調査(2012年)

23

1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【商圈の構成】

- 山形県が2012年に実施した「山形県買物動向調査」によると、高畠町は置賜地方の商業の中心として位置する米沢市の一次商圈に属している。自町内で買い物をする人は23.3%で、約8割の人が他市町村へ買い物へ行っていることになる。
- また、高畠町は南陽市の一次商圈にも属しており、約3割の人が流出している。

□ 米沢商圈の構成



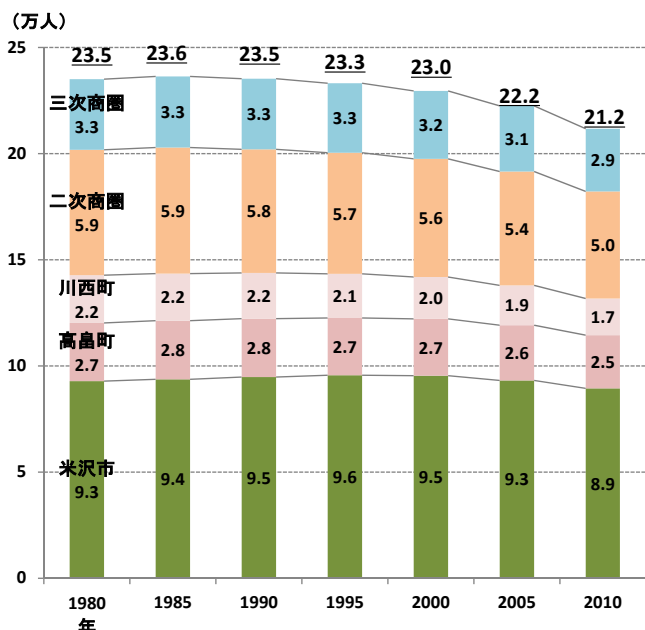
出所: 山形県買物動向調査(2012年)

24

1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【米沢商圈の人口推移】

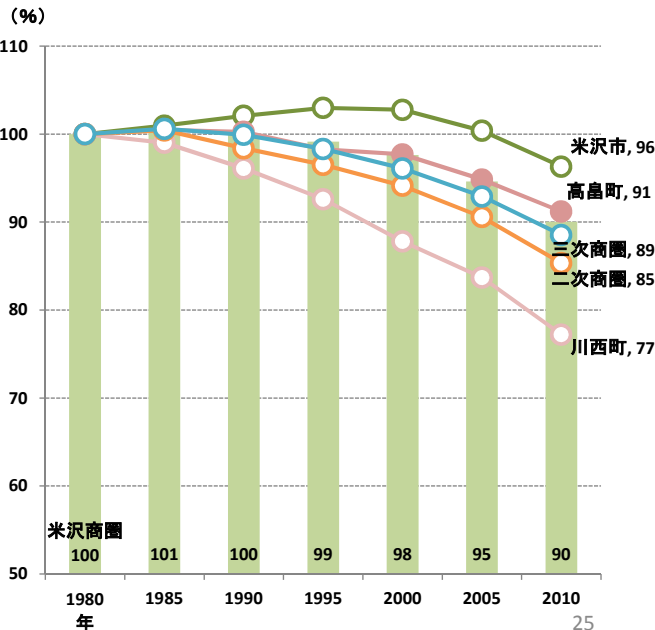
- 米沢市は1980年から2010年にかけて人口が増加から減少に減じたものの、その減少幅は4%程度であるが、商圈を構成する市町村は同時期に米沢市よりも人口を減少させている。一次商圈（高畠町・川西町）は15%、二次商圈（南陽市・小国町・飯豊町）は15%、三次圏は11%の減少が見られる。
- 米沢市の一次圏は高畠町・川西町の二町から構成されているが、高畠町だけの人口の減少幅は9%程度で、川西町は23%と大幅に減少させている。

□ 米沢商圈の人口推移



出所: 国勢調査

□ 米沢商圈の人口推移 (1980年を100として指数化)

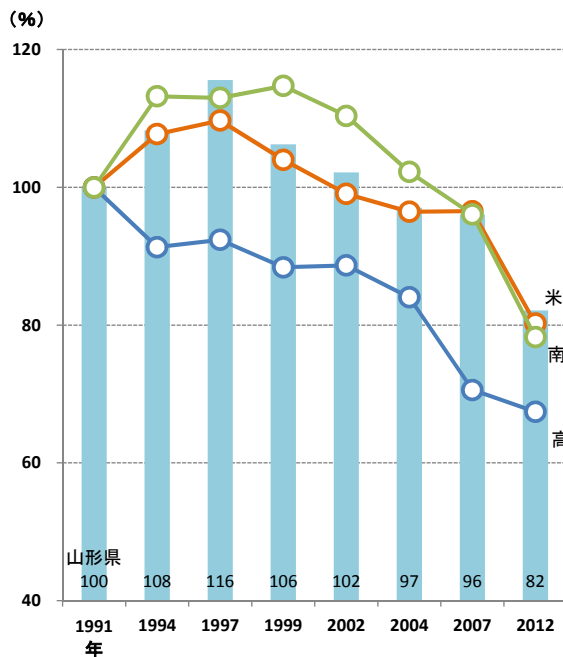


25

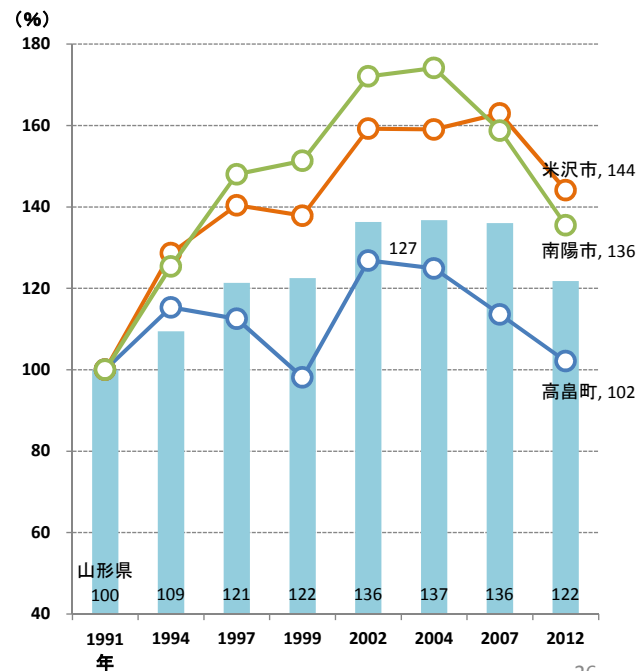
1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【置賜地方内主要都市との比較】

- 山形県全体の小売販売額は1991年から2012年にかけて18%減少した。同時期に高畠町は33%の減少であり、山形県全体よりも早いスピードで域内市場が縮小している。
- そのなかで売り場面積は1991年比で、1999年に27%増加したものの、その後減少傾向にあり全体を通して見ると2%の増加に留まった。

□ 商品販売額の推移（置賜地方内主要都市との比較）



□ 売り場面積の推移（置賜地方内主要都市との比較）



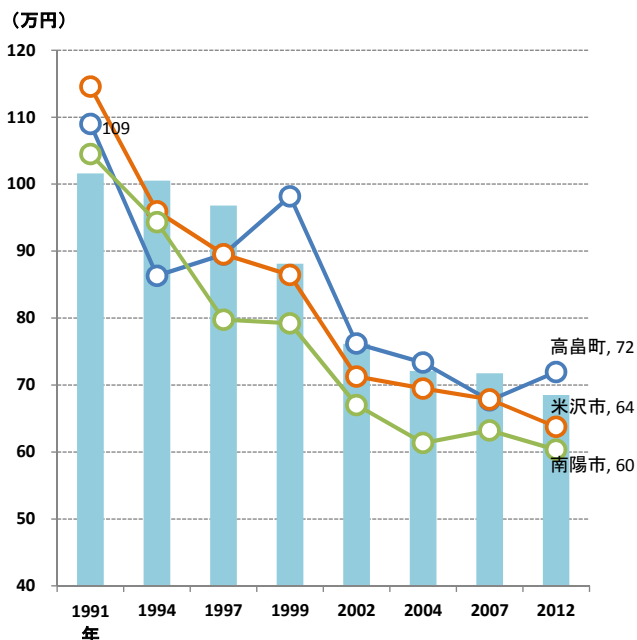
出所：商業統計調査・経済センサス活動調査（2012年）

26

1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【置賜地方内主要都市との比較】

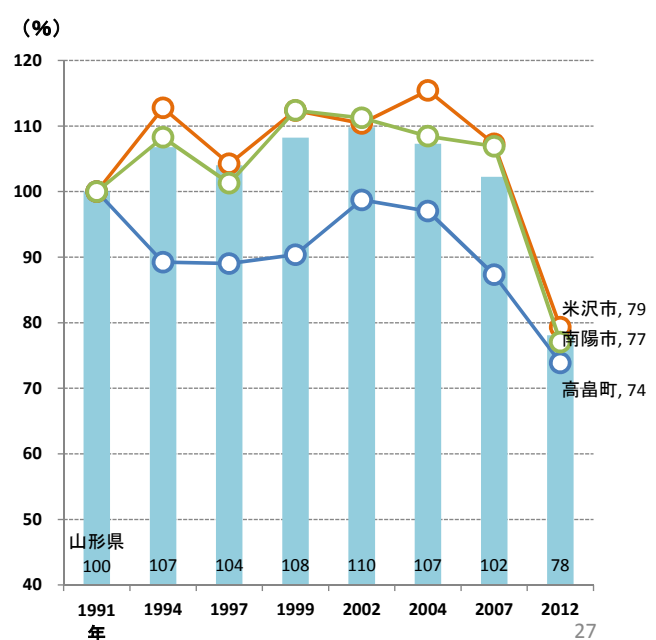
- 小売販売額が減少する中で、売り場面積が増えれば、売場効率は下がっていき、事業者にとっては商業環境が悪化していく。実際に、高畠町では1991年の109万円/㎡から2012年は72万円/㎡に売場効率は低下している。
- 商業環境が悪化すれば、事業者はコスト削減のために従業者を減らすため、就業者数は減少していく。さらに、それでも事業が成り立たなければ、廃業・撤廃が進み、地域の買い物環境は不便さを増すことになる。

□ 売場効率の推移（置賜地方内主要都市との比較）



出所：商業統計調査・経済センサス活動調査（2012年）

□ 就業者数の推移（置賜地方内主要都市との比較）

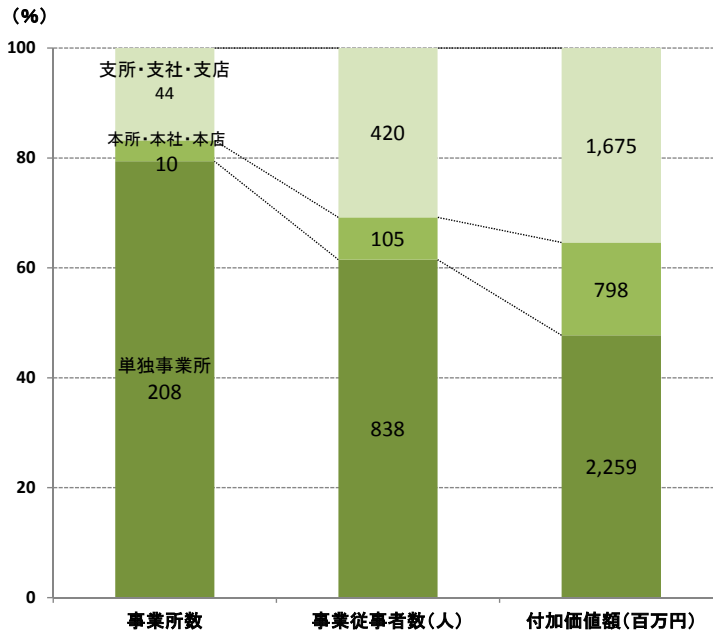


27

1. 産業別の現状分析 (3) 小売業 【単独・本所・支所別の構成】

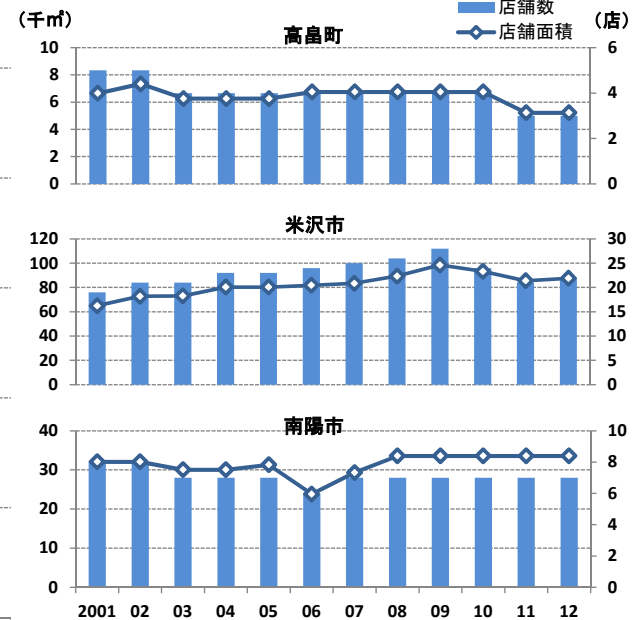
- 高畠町には米沢・南陽両市に見られるようなGMS・ショッピングモールがないことから、地元の事業者のウェイトが高く、事業所数では8割超、従業者・付加価値でも6～7割を町内の事業者が占める。ただし、これら事業者は、近隣の大型商業施設への消費流出を食い止めるほどの吸引力を持つには至っていないものと思われる。

□ 事業所類型別の事業所・従事者・付加価値額



出所: 経済センサス活動調査(2012年)

□ 大規模小売店舗の推移 (高畠町・米沢市・南陽市)



出所: 大規模小売店舗総覧

28

2. 現状と課題の整理

	現状	課題	今後の方向性
農業	● 農家数の減少・高齢化が進んでおり、耕地面積も減少傾向にある。 ● 米・果実の生産が盛んであり、有機農業・6次産業化の取組も先進的に進められている。	● 生産者の高齢化・後継者不足、農地の減少(耕作放棄地等)による生産基盤の弱体化への対応が今後も課題となる。 ● 担い手の多様化(一般企業等を含む)を行い、若者が就農しやすい条件を作り出すことがポイント	● 地元製造業の農業参入の可能性検討 ● 有機農業・6次産業の先進地としての売り込みを強化し、消費者への高畠町ブランドの浸透を図る(加工品への展開自体は他地域よりも先を行っている)
製造業	● 雇用面ではもっとも貢献度が高い産業であり、重要な外貨獲得産業でもあることから、高畠町の基盤産業と言える。 ● 業種では「食料品」・「電子部品・デバイス・電子回路製造業」・「生産用機器製造業」のウェイトが高い ● また地元企業の存在感が大きいことも特徴となっている	● 力のある中小・中堅企業の成長をいかにサポートするかが課題となる ● 特に町のもう一つの基盤産業である農業との相乗効果をいかに発揮させるかがポイント	● 高畠ブランドの食料品の認知度を高め、町内に付加価値をさらに落としていく ● そのために町内調達率を高めること、町外からの観光需要を取り込んでいくことが重要
小売業	● 雇用吸引力は高いものの、域外への消費流出により、商品販売額は低下傾向にある	● 域外へ流出している消費を町内に呼び戻すことが必要	● 地元での購買意欲をかきたてる産地直売、高齢者のニーズに細かく対応できる小規模商店の活性化が重要